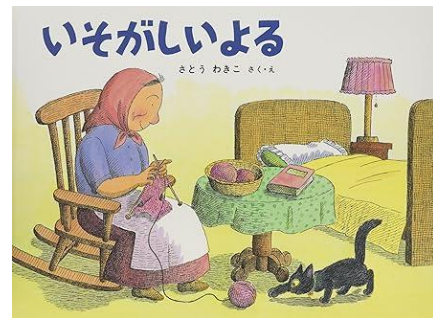




今月は「ばばばあちゃん」の絵本をご紹介します。子ども達も大好きなシリーズの絵本です。いつも元気なばばばあちゃん。いろいろな動物たちと一緒に、楽しく面白い、そして現実にはおこらないけれど、なんだか起こりそうな・・・そんな楽しいお話がたくさんあります。3歳をすぎると生活の中の不思議に気づき「なぜ?」「どうして?」そんな「知りたい気持ち」が芽生えます。絵本を楽しみながら、春夏秋冬すべての季節や自然の面白さとファンタジーの世界を楽しめるお話ばかりです。



「いそがしいよる」

「なにこれ、おもしろい!!」

私がこの絵本を読んだ最初の感想です。題名から想像していた斜め上をいくお話でした。

お星さまの綺麗な夜。誰でも家の中のようにリラックスしながらきれいな星が眺められたら最高の気分ですね。

現実にはできないけれど、そんな気持ちをばばばあちゃんがやってのけるお話です。でも、最後は「これ、お星さまは見えるの?」と笑ってしまいました。

これが「ばばばあちゃん」の絵本をもっと読みたい、この面白さを大人に知ってもらい、子どもたちに伝えたい・・・親子で一緒に楽しめたらいいなあ・・・そんな思いをくれた一冊です。

～ちょっと調べてみました～

ばばばあちゃんの作者はさとうわきこさん



1997年の月刊誌「母の友」

12月号に「ババばあちゃんのはなし すてきないす」で絵童話としてはじめて登場したそうです。

絵もさとうわきこさんです。絵本によって、絵のタッチは違いますが、どれも温かみのある絵です。



(福音館書店 HP 引用)

ちなみに・・・「いそがしいよる」は1987年に刊行した1作目のお話です。



「すいかのたね」ばばばあちゃんがまいたすいかの種。何度も掘り返されては「すいかのたねか」とがっかりされて、しまいには、最初に種をまいたばばばあちゃんまでが忘れて「なんだすいかのたねか」って。それを聞いた種がすごい勢いで怒るのですが、それ以上に怒って言い返すばばばあちゃん。すいかのたねの怒り方がおもしろい。

「やまのぼり」もおもしろい。春になって山登りにでかけるばばばあちゃんたち。せっかくの山登り、お弁当もおやつも、おもちゃにボール。みんな持っていききたいものがいっぱいです。でもたくさんすぎて持っていくのは難しい。ばばばあちゃんのある思い付きで、みんなうれしい・・・やってみたくくなりました。

「こどりのうち」は少しもことりじゃないのが面白い。「あひるのたまご」はおなかを抱えたばばばあちゃん。みんなが「びょうき?」とお見舞いにきますが、なんと、見つけたあひるのたまごを温めていました。誕生したひよこちゃんのパーティーをしているとあれ?ばばばあちゃんの様子が・・・。

4月になると春が来て、いつも外で昼寝をするばばばあちゃん。この年は「たいへんなひるね」になりました。4月だというのに雪が降っています。いつまでもうろうろしている冬を追っ払うお話です。こんなことができれば面白い。文章だけでなく、絵本全てを読んで面白さいっぱいです。

どの絵本もばばばあちゃんのやること、思いつくことが楽しくって
「もっと読みたい。」・・・そんなお話ばかりです。

